

クレス出版

No.KD0351
2022年5月

第1回配本 全4巻

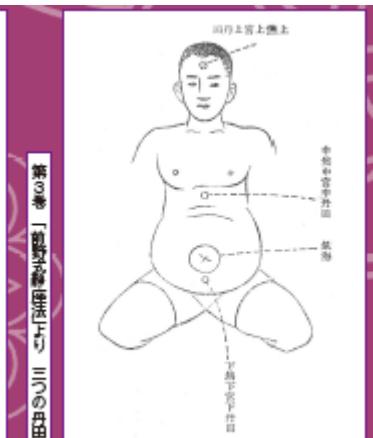
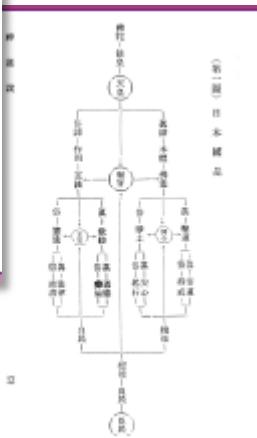
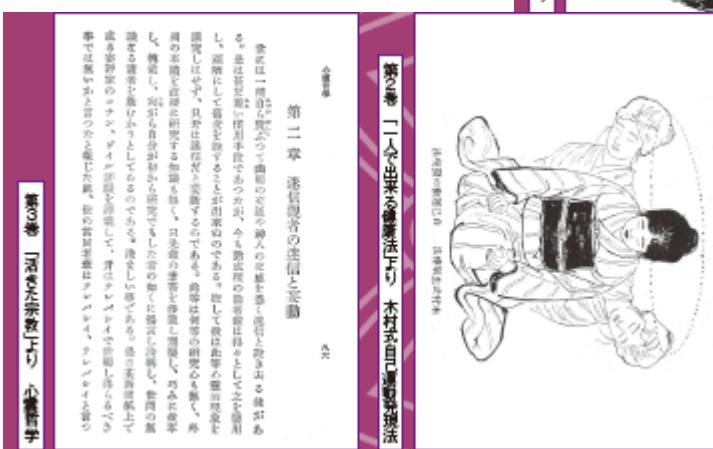
術と行の近代 —精神療法・靈術・宗教—

吉永 進一 監修・編・解説 栗田 英彦 編・解説

明治末から昭和初期にかけて、治療者数だけで三万人といわれた
民間精神療法の一時代があった！

精神療法家による理論、実践、奥伝を含んだ冊子、定期刊行物を、内外からの批判、伝統宗教との対峙、業界の主導権争いが浮かび上がるような構成で編纂する。これまでに出版された精神療法史研究書では扱いきれなかった領域を補い、研究史を慮から面へと広げる貴重資料。

宗教学・オカルト・ 日本思想史・催眠・ 医療史研究者へ！



◆内容見本◆

SalesID	ISBN	シリーズ名称	同時アクセス1 (本体価)	同時アクセス3 (本体価)
KS00000661	9784866701004	術と行の近代 精神療法・靈術・宗教 第1回配本(全4巻) (分売不可)	¥91,300	¥182,600

◇収録一覧◇

第1巻 精神療法の諸相 (1)

檜山式療養法伝授録 全 ●檜山鐵心／一九一八年／研精社
純心靈研究と現代靈術の正体 ●溝田文右衛門／一九二六年／皇國修靈会本部

第2巻 精神療法の諸相 (2)

一人で出来る 健康法 ●石黒憲輔／一九二九年／大阪屋号書店
神占靈術 祈祷師開業手続 全 ●日本佛教新聞社編輯／一九三五年／日本佛教新聞社

第3巻 精神療法と宗教 (1)

精神作興 活きた宗教 全 ●清水芳洲／一九二四年／東京心理協會本部、二松堂書店
胆力養成 前野式静座法 ●前野自錐／一九一七年／泰山房

第4巻 精神療法と宗教 (2)

禪と催眠術 ●岡田摘翠／一九〇九年／啓成社
幻々要集 全 ●中村 環／一九二七年／福田社刊行部

◇刊行の言葉◇

民間精神療法の基本的資料については、すでにクレス出版より三つの復刻本シリーズが出版されており、その後、国会図書館デジタルコレクションでも多くの資料が公開されている。精神療法史の基本的な資料は利用可能になっている。さらに『近現代日本の民間精神療法』(国書刊行会、2019年)などの研究もあり、その歴史も明らかになりつつある。とはいえ、いまだ語り尽くされずに残っている領域は広い。たとえば、技法についても未復刻の秘伝書は多く、利用者の側の体験記となるとさらに少ない。また、精神療法は、その黎明期から末期にいたるまで神道や仏教などさまざまな交流を保ちながら存続してきたが、これについても十分には議論されていない。さらに、療法家たちのネットワークや抗争などについても、団体の機関誌や業界誌、あるいは同時代の一般誌など、定期刊行物を通して分からぬが、この点もまだまだ研究されていない。本叢書では、こうした点を補い、精神療法史を点から面へと広げていくという意図で資料を選んだ。

その一端を紹介しておけば、『一人で出来る健康法』は、著者による江間式や太靈道など六つの精神療法体験をまとめたものであり、実際の体験談の記録は貴重である。『祈祷師開業手続全』は、最も容易に祈祷師の免状をとつて治療を行うノウハウを説明したもので、教派神道の内実暴露を含み、新宗教研究にも参考になるだろう。『禅と催眠術』の著者はのちに駒澤大学学長を務める岡田宜法であり、心理学者による禅の分析ではなく禅の側からの比較である。同様に『幻々要集』の著者、中村環は居士仏教者で催眠術師としても一世を風靡した幻々居士のことであり、アメリカ人仏教徒ビゲローへの説法という注目すべき一編を含んでいる。

定期刊行物としては、精神療法家を輩出し最初に業界団体を組織した古屋鉄石の『精神新報』、古屋に続いて業界のまとめ役となった清水芳洲（英範）の『精神統一』、そして清水と対立していた『通俗医学』は、業界内の人脈をたどる上で貴重な資料となろう。木原鬼仏の『心靈界』、『太靈道』、松本道別の『靈学春秋』は大本と精神療法の抗争を知る上で重要である。

このように、本叢書は、精神療法史を充実させるだけでなく、既成仏教、教派神道、新宗教も視野に含んで、術と行の近代史という、より広い研究領域の出発点となることを期待する。

吉永 進一